

企業名： 株式会社昭和産業

レポート名： 統合報告書 2022

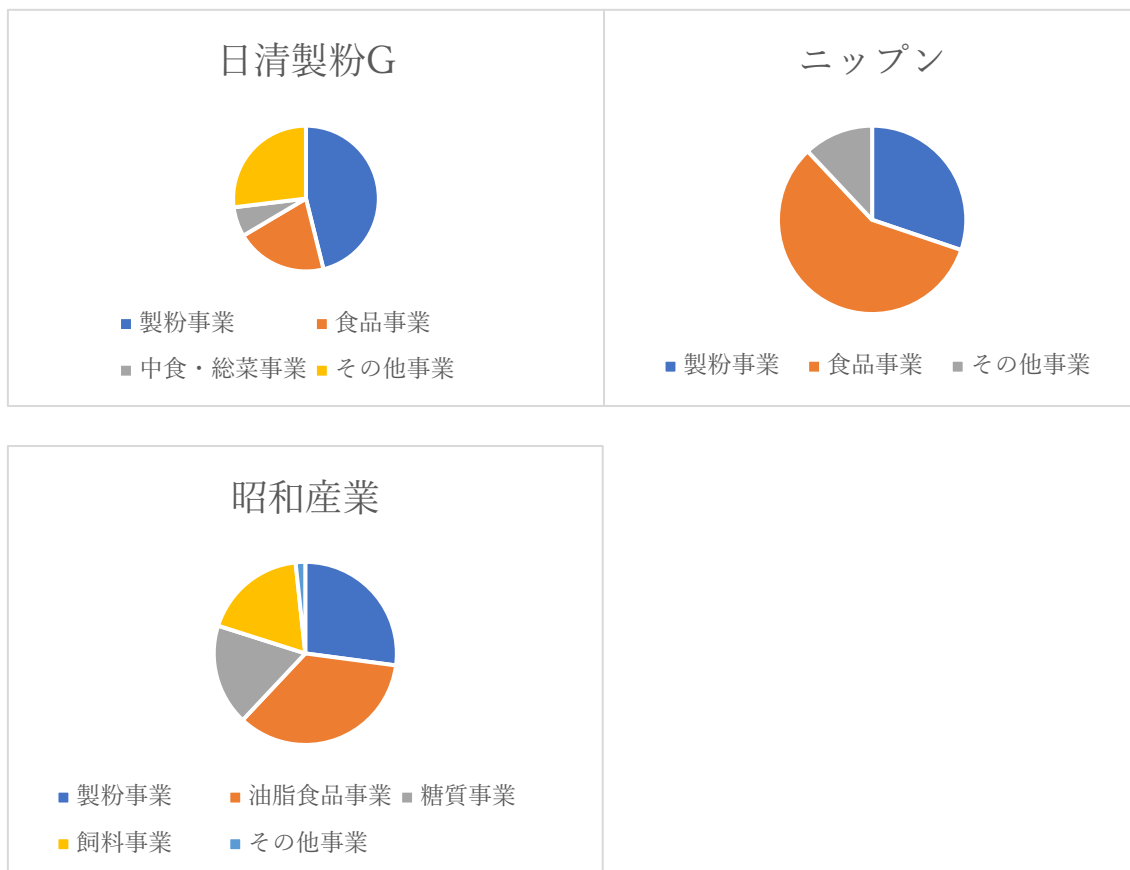
1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

昭和産業が目指している将来の姿は、同社の長期ビジョンである「SHOWA next stage for 2025」によく表れていた。具体的には、1st, 2nd, 3rdの三段階から構成されており、①基盤事業の強化、②事業領域の拡大、③社会的課題解決への貢献、④プラットフォームの再構築、⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化、を目標としていた。どの目標にも基本方針とそれに基づいた具体的な達成へのプロセスが分かりやすく書かれており、理解しやすかった。また、自社の進歩と成果を細かく分析し、それが、○△評価、ABCD評価など直感的に理解しやすく作られた表を用いるなどして示されていた。進歩と成果は抽象的な言葉で書かれ、よくわからないことがあるが同社はしっかり具体性の突き詰めができていたと感じた。特に、達成へのプロセスに関しては、現実的な計画、すでに発表済みの商品の可能性を表すなど、達成へのプロセスが将来に先送りされず現在の延長線上にあることがよくわかる。そのため、同社の将来設計、そのための基本方針と目標、達成のための具体的なプロセスが理解できた。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

同社の競争優位性は、読んでいくうちに同社内におけるシナジー、多様な事業内容、シェア、であることが浮かび上がってくる。一つ目のシナジーについては、複数の部門においてシナジーにおける効果が記されており一読すればこのことが同社の競争優位性であることが分かるだろう。また、シナジーによって具体的にどのような成果が上がっているのか、引き続きシナジーを活用することでどのような価値創造を行っていくのかが具体的に書かれており、単にシナジーがあるという事を示すだけでなく同社においてシナジーが十分に競争優位性であることを示すことができていると感じた。また1でも示したように、この点においても見やすい表やレイアウトが用いられており、これも競争優位性理解の一助になっていると思う。二つ目は、シナジーに加えて同社の競争優位性は、多様な事業内容にあるともわかる。同社の競合にはニッポン、日清製粉グループが挙げられるが、二社とも製粉や食品などジャンルの似通った事業が多くを占めるのに対し、同社は製粉や飼料事業に加えて糖質事業、油脂事業を持っていることが分かる。そのため、製粉と油脂、糖質事業を掛け合わせた商品を開発できることは同社の競合優位性であることが分かる。この点に関しても、カレーパン事業、ホットケーキミックス事業など具体例がきちんと書かれてあり理解しやすいと感じた。三つ目のシェアについては、小麦粉販売数量シェア三位ホットケーキミックスシェア1位決勝ブドウ

糖シェア 70%など同社が高いシェアを獲得している事業が複数あることが、わかりやすく示されていた。シェア獲得は経済性や価格交渉などの点において競争力向上に貢献するため、シェアが同社の競合優位性であることが分かる。



3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

事業運営において獲得した技術の保護や、リスク管理や同社のさらなる価値創造に関する計画性は表や記述において理解できた。しかし、財務部門において、財務リスク管理を徹底することで成長投資を引き続き行い、持続的な企業価値創造を目指す。という記述があった。また、海外市場や営業DX化による価値創造等の記述もあったが、同社における海外市場開拓はこれからといえる段階にあるため、海外に市場を持つことは確かに持続性を上げる効果があると考えられるが、現段階では十分な理解を得られるとは考えにくい。そのため、同社の競合優位性に持続性があるかはあまり理解できなかった。加えて、たとえ成長投資を行っていたとしても事業自体が衰退産業であれば持続性があるとは言えない。よって競合優位性を示すのであれば、同社の得意分野である油脂や糖質事業自体の市場価値や成長性を示すことができれば、理解しやすかったと思われる。事業内容が原油価格や小麦価格の変動に大きく影響を受けるため、価格高騰時にどのようにシナジーを利用して競合優位性を保つのか具体的な記述がもう少し欲しいと感じた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人的資本の価値向上においては、非常に具体的な価値向上のプロセスが分かりやすい図を用いて体系的に示されていたと感じた。同社は人事制度の方針として①課題解決能力の深化、②イノベーションの促進を設定し、等級、評価、報酬の各制度や教育研修プログラムを通じて人材育成と経営目標達成を設定している。具体的には、定期的な社員の目標設定や上司との面談、細かく体系づけられた教育プログラムがみてとれた。人的資本の価値向上のプロセスが具体的に書かれており定期的な目標の設定や上司との面談では自分の仕事を振り返ることやモチベーションの向上にもつながると感じた。そのため、人的資本の価値向上を達成できると感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

全体を通してわかりやすい説明、レイアウトになっていたと感じる。特に、指針⇒具体的なプロセスの流れが分かりやすくすぐ内容が理解できる。また、各部門ごとの記述があったが、そこにおいても内容の説明図やレイアウトが統一されており、このことも、容易な内容理解の一助となったように感じる。また、改善余地があるとするなら、3でも書いたとおり、事業の市場価値や成長性を示すことで同社の競合優位性をより分かりやすく示すことができると思う。また、大豆ミート製品についての記述を増やしても良いだろうと感じた。なぜなら、近年の増え続ける人口に比例してたんぱく質不足が懸念され始めている。最近では、コオロギが解決策の一つとして話題となったが、昆虫食は現代日本にはなじみはなく定着は厳しいように思える。しかし、大豆は日本において古くから食されておりなじみ深い食品である。また同商品の開発は、サステナビリティの増進の観点からみても良いし、市場もまだまだ黎明期であると感じる。そのため同商品は非常に価値の高い商品だと感じた。昭和産業は油脂事業、製粉事業など、大豆ミートと相性のいい事業を持ち合わせている。こういった部分も1で記述したシナジーによってまだまだ成長させることができるだろう。こういった理由からもう少し大豆ミートの記述を増やしても良いかなと感じた。しかし、全体的に企業の価値はわかりやすく書かれており、良い統合報告書であると感じた。

参考資料

昭和産業統合報告書 2022

https://www.showa-sangyo.co.jp/ir/library/integrated_report/

IR バンク

<https://irbank.net/>

業界動向リサーチ

<https://gyokai-search.com/4-seihun-uriage.html>

ニッポン統合報告書 2022 年

https://www.nippon.co.jp/ir/announcement/Integrated_report/index.html

日清製粉グループ統合報告書 2022 年 3 月期

<https://www.nisshin.com/ir/reference/integrated/>